

柏崎・刈羽地域における令和6年産米の1等級比率は、コシヒカリで88.2%、こしいぶきでは86.8%でした（JA検査11月20日現在CE含む）。また収量については、特にコシヒカリで減収が見られました。

令和7年産米はコンパクトな稲づくりと後期栄養の確保、土づくりの徹底、雑草対策を行い、品質向上・収量確保を図りましょう。

1 令和6年産米の品質・作柄概況について

・令和6年産米検査実績（JA検査11月20日時点 CE含む）

品種名	1等級比率	格落ち理由		
		1位	2位	3位
コシヒカリ	88.2%	除青未熟	胴割	心白
こしいぶき	86.8%	除青未熟	青未熟粒	背白
葉月みのり	94.7%	除青未熟	背白	カメ
新之助	91.0%	除青未熟	胴割	心白
ゆきん子舞	100.0%	-	-	-

・作況指数（農林水産省北陸農政局 R6.11.19）

	R5年産米	R6年産米
中越	96	99
新潟県	95	98

・収量構成要素の概況（柏崎普及指導センター）

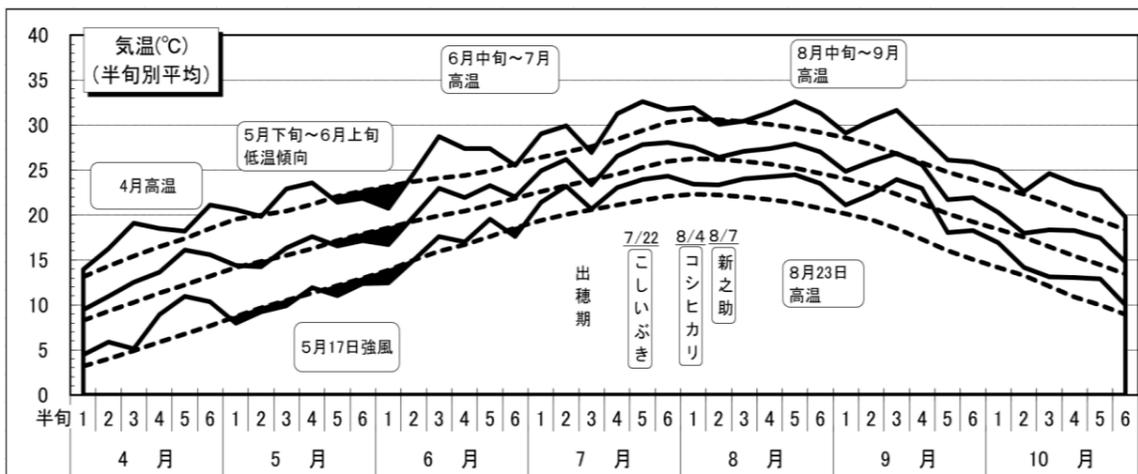
	穂数	一穂粒数	総粒数	登熟	千粒重	収量	品質
中生（コシヒカリ）	少～やや少	並	少～やや少	やや不良	並	少	良
早生（こしいぶき）	並	やや少～並	並	並～やや良	並	並	良

2 作柄・品質低下の要因について

○令和6年度水稻生育期間の気象経過（アメダス観測地点：柏崎市元城町）

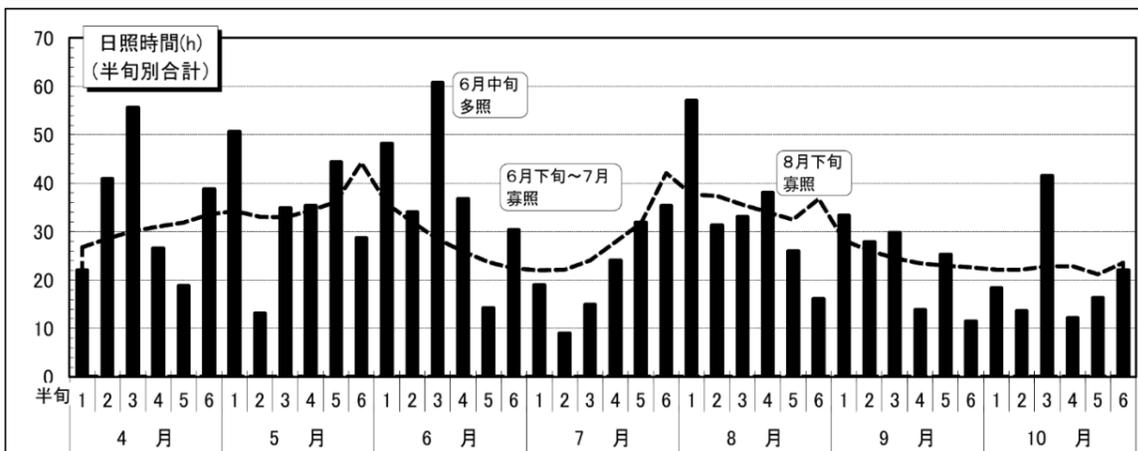
(1) 育苗期の気温

- ・4月が高温で推移したため苗の生育が早まり、移植が遅れた生産者では老化苗になり初期生育に影響しました。
- ・移植後5月下旬～6月上旬は低温で推移し、5/17の強風の影響もあって分けつの発生が遅れました。



(2) 幼穂形成期～出穂期の日照不足

- ・6月下旬～7月にかけて高温でありながら、日照が少ない状況が続き、光合成不足により茎の充実が不十分になりました。生育の遅れた茎が細く徒長したことで倒伏や登熟不良を招いたとみられます。

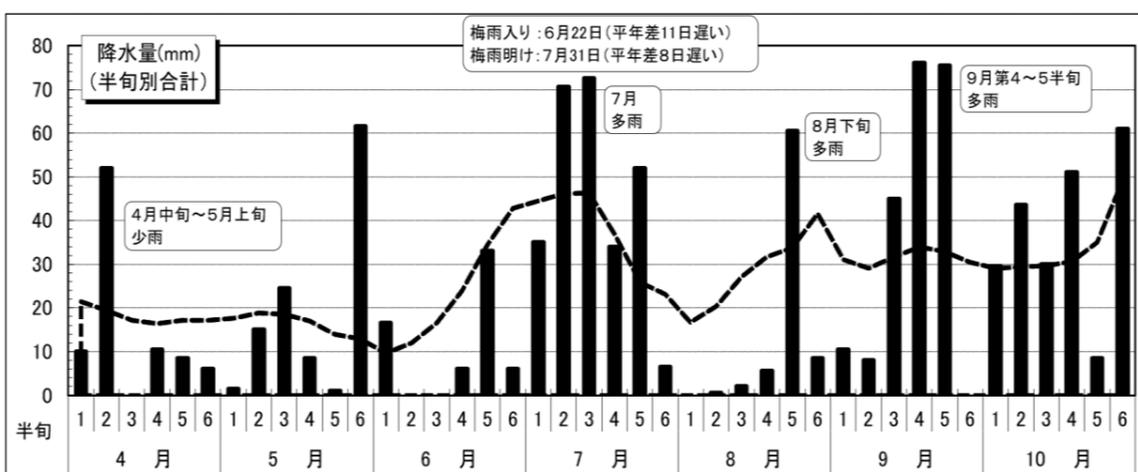


(3) 登熟期の日照不足

- ・8月下旬の日照時間は平年比61%と少なく、登熟不良や粒張りが不足し、収量低下や未熟粒による格落ちが発生しました。

(4) 登熟期の強雨による倒伏

- ・^{かんちょう}稈長が長い状況で8/25の強雨をうけ、コシヒカリで早期に倒伏したことで後期登熟が悪化しました。
- ・9月第3～5半旬に断続的に降雨があり、倒伏が進行しました。また、倒伏により収穫が遅れ、胴割粒の発生が助長されました。



3 令和7年産米に向けた栽培技術対策

○コンパクトで倒伏に強いイネづくり、穂肥施用で気象変動に強いコメづくり

- ✓倒伏を防ぎながら、近年常態化している異常高温に対応した施肥設計を行いましょう。
 - ・過剰分げつを抑制し、適切な穂肥施用ができる稲姿を確保することが重要です。コシヒカリの場合、栽植密度を50株/坪程度として適期中干しを実施しても、穂肥時期の過剰生育が毎年のように続くようなほ場では、土壌条件や生育量を考慮して、基肥窒素量を減肥しましょう。
- ✓適期中干しによる生育調節で倒伏させないイネづくりをしましょう。
 - ・田植え後1ヶ月を目途に中干し・溝切りをしましょう。
 - ・倒伏が懸念される生育（草丈・莖数）や高い地力、排水の悪いほ場の場合は5日程度早めに中干しを開始しましょう。

○倒伏・高温に耐えられる土づくり・元気な根づくり

＜堆肥・ケイ酸質資材による土づくり＞

堆肥や土づくり資材等を積極的に施用して、作土層に地力を蓄え、高温時に登熟障害を起こさせない丈夫な稲体を作るための土づくりを行いましょう。

＜稲わらの秋すき込み＞

稲わらは貴重な土づくり資源です。秋すき込みは春すき込みに比べ、根腐れや生育障害の原因となる「ワキ（ガス）」の発生を抑えることができます。継続して行うことで効果が現れます。

＜作土深15cmの確保＞

- ① 水稻の根の8割以上は、作土層に分布し、生育に必要な栄養のほとんどを作土層から得ています。
- ② 作土が浅いと、水稻の根が上部に集中し、高温や乾燥に対する抵抗力が低下します。
- ③ 登熟期に高温に負けない水稻に育てるため、15cmの深さを目標に耕し、十分な作土深を確保しましょう。

○雑草対策

- ✓管内のほ場では、昨年の8～10月が高温で推移したことで、ヒエ、ホタルイを中心とした雑草が刈取り後に増殖し、種子がより多く残っていると予想されます。前作が極早生・早生のほ場は特に注意が必要です。
 - ・ていねいな畔塗り、代かきを行って漏水を防ぎ、除草剤の効果を高めるほ場づくりをしましょう。
 - ・一発処理剤の使用を基本とし、雑草の種類やほ場条件などに応じて効果的な除草剤・除草体系を選択しましょう。
 - ・除草剤散布時は水尻を閉め、水を十分に湛水して散布しましょう。（降雨によるオーバーフローに注意）
 - ・除草効果の安定のため7日間程度は入水を控えましょう。散布の際は、処理時の水深を確保するとともに、処理後4～5日は湛水状態を保ちましょう。

◎ SNS・メールで情報提供しています！

＜JA えちご中越柏崎地域営農情報＞



アカウントID: @882qbimy



＜柏崎農業普及指導センター メールマガ＞

登録方法

- ① QRコードを読み取る
- ② 件名「メールマガジン申込」
本文「氏名、電話番号」を入力してメールを送信
- ③ 次のアドレスからのメールが受信できるよう設定
kashiwazakinou@pref.niigata.lg.jp



柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、新潟県農業共済組合中越支所、えちご中越農業協同組合、柏崎土地改良区
柏崎農業普及指導センター（新潟県柏崎地域振興局農業振興部）

【お問い合わせ先】

全地区共通

柏崎農業普及指導センター 21-6263

東部田尻・西中通・高柳

かしわざき営農センター 35-8188

南部高田・中央柏崎地区

かしわざき南部営農センター 41-6087

刈羽・西山地区

かしわざき北部営農センター 45-2258